

広島県呉市仁方地区の道路整備における構想段階P I の取り組み

中国地方整備局 広島国道事務所 調査設計第一課 計画係長 印居英文

1、はじめに

広島県呉市仁方地区の東西を走っている一般国道185号は、朝の通勤時に車両が集中するため渋滞が発生しており、地域の住民や道路利用者にとって重要な課題となっている。

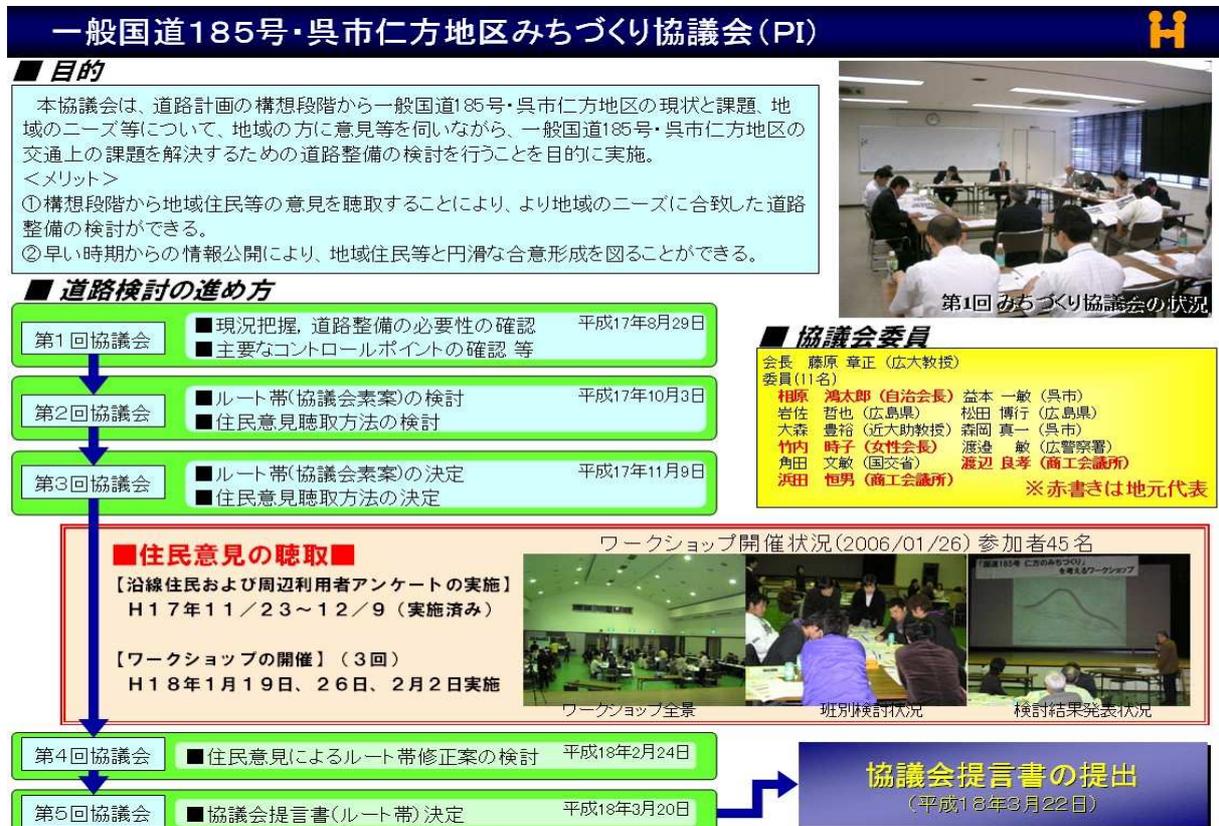
このため、平成17年7月に一般国道185号を管理している広島国道事務所を始め、広島県、呉市などからなる呉地域幹線道路整備協議会において、仁方地区の渋滞緩和のための道路整備の検討を進めることが合意された。この合意を受けて、道路整備の必要性を議論する段階から地域住民との合意形成を図る「構想段階P I」によって整備計画の検討を実施することとした。本文はこの取り組みについて紹介するものである。



図-1 位置図

2、「呉市仁方地区みちづくり協議会」(以下協議会という) の設立

協議会の目的、委員名簿、検討経緯を図-2に示す。



まず、平成17年8月から11月までに3回開催し、協議会(案)としてのルート帯を決定した。なお仁方地区内の市道との接続やバイパスの歩道設置については、バイパス本来の機能（通過交通を処理する観点での利便性、安全性）を重視した道路構造（市道とは立体交差、歩道未整備）を基本にしながら、今後の住民意見聴取結果を踏まえて検討していくことで意見が一致した。

また、この協議会(案)をベースにより多くの地域住民の意見を取り入れるため、広範囲な住民を対象に意見の傾向を把握することを目的としたアンケート調査を実施すると共に、住民の方々と直接対話により意見を徴収することを目的としたワークショップを開催することとし、これらの実施時期、方法及び内容についての確認を行った。

3、住民意見の聴取

3. 1、アンケート調査

道路の利用頻度が高い呉市広地区以東の約3万世帯を対象に、新聞折り込みによるアンケート調査を実施した。アンケート用紙には協議会での検討経緯及び協議会(案)をわかりやすく記載し、これに対する設問をお願いした結果、1,700件の有効回答を得ることができた。また、併せて後日開催するワークショップへの参加を呼びかけた。

3. 2、ワークショップ（以下WSという）

図-3のスケジュールで実施した。

参加者 (48名)	公募した地域住民	39名
	呉工業高等専門学校 の学生	7名
	広島大学の大学院生	2名

●工夫した点

WS運営にあたり、以下の配慮を行った。

【グループ分け】（図-4参照）

○沿道利用者である仁方地域の人と、通過利用者である周辺地域の人でグループを分類

→ 道路の利用形態が同じ者同志のグループ編成とすることで、意見・提案等の具体性向上や同調意見の活発化を期待

○グループごとにテーマを設定

→ きっかけを作ることにより意見の散乱を抑制し、集中的な討議を期待



図-3 WSの流れ



写真-1 WSでの討議状況

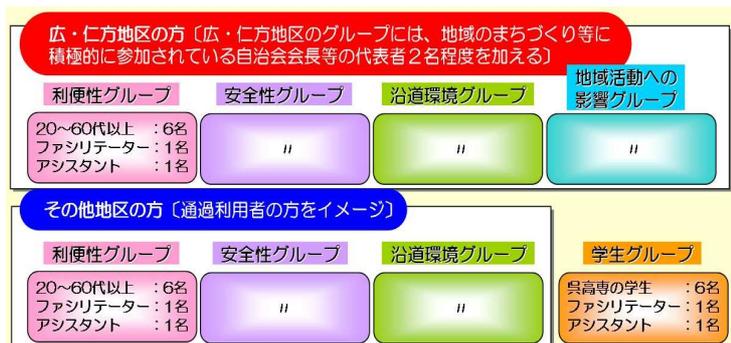


図-4 グループ分けのイメージ

【ファシリテーター（進行役）】

- 効率的なグループ討議を行ってもらうための進行役として、呉市にキャンパスのある広島国際大学と呉高専の先生方にファシリテーターを依頼
 - 参加者全員に参加したという実感を持ってもらうことができるように、質問や意見が出やすい進行を心がけてもらうことを期待
 - 討議の流れが横道にそれないように、全体のコントロールを期待

【アシスタント】

- 呉市の若手技術職員にアシスタントとして、WSの運営に参加
 - 今後の公共事業を担っていく上でのスキルアップを期待

【グループ討議の分割】

- 他グループの発表及び質問事項を参考に2回目の討議を実施
 - 違った立場による提案や意見を取り入れた再討議を期待
- 1回目のグループ討議結果について、選定ルートにおける概算事業費、要検討事項、ルート選定箇所の現況写真及び他グループからの意見を整理した図面を作成
 - 具体的な条件やイメージを提示することで、スムーズに進行することを期待

●問題点

実際にWSを行って、以下の問題点が生じた。

【人の意見を聞かない人への対応について】

声が大きく無理矢理自分の意見を通しきった人が見受けられた。このような人がいると、グループ討議の意義がなくなってしまう。このような点も考慮した班編成を考慮する必要がある。

【実感できる事例の提示が必要】

机上での議論には限界がある。これから整備していく道路のイメージを、リアルに伝えることができるような情報提供が必要である。

(例えば縦断勾配3%が1km以上あるようなトンネルを歩くイメージについて等)

●参加者の声

第3回WS後に実施した参加者アンケートでは、82%の方がワークショップに参加して「満足」「まあまあ満足」と回答し、97%の方がWSでの行政参画の呼びかけに対して「よい」「まあまあよい」と回答しており、今回のWSが有意義なものになったことが伺える。ただし、WSの時間については、40%の方が「短い」「短すぎる」と回答しており、中にはもっと回数を増やしてほしいという意見もあった。



図-5 参加者アンケートの結果

4、協議会(案)の修正及び提言書のとりまとめ

WS後に協議会を2回開催し、WSで得られた様々な提案を受けて、協議会(案)の修正を行った。この2回の協議会を開催するにあたってWS参加者に開催案内を通知した結果、それぞれ15名程度の方に出席していただくことができ、WSの結果に対する関心の高さが伺えた。

こうして「一般国道185号呉市仁方地区の道路整備に関する提言書」がとりまとめられ、平成18年3月22日に協議会会長から呉都市圏幹線道路協議会会長（広島国道事務所長）に提出され、今回の「構想段階PI」は終了した。



図-6 提言内容概要図

5、広報

今回のPIを進めて行くにあたり、協議会及びWSの実施状況を広く、速やかに知ってもらうために、「一般国道185号呉市仁方地区みちづくり協議会ニュース」を発行し、広地区以東の自治会等を通して回覧（回覧世帯数：28,800世帯）するとともに、呉市役所及び広以東の8支所の窓口においてPRを行った。また広島国道事務所及び呉市のHPには協議会のページを作成して情報提供を行った。

なお、協議会やWSの状況は新聞・テレビでも多数取り上げていただいたところである。

図-7 みちづくり協議会ニュース vol.2

6、おわりに

今回の構想段階PIで、多くの地域住民に道路整備計画の一端に触れてもらうことができ、事業の透明性が図ることができたものと考えられる。また、住民意見をバイパスの整備計画に反映させる機会を作ったという点では、行政側にとっても有意義なものとなった。

しかし、今回得られた意見に対して全て満足へのいく対応は困難であり、どこまで計画に取り込んで事業に反映させ、地域住民や道路利用者にとって満足のでられる計画を策定するかが今後の課題である。

仁方バイパスの計画は、まだまだ序盤である。今後事業化、着工及び完成に向けてのプロセスにおいても、地域住民と一体となった取り組みを進めていく所存である。